人と自然と文化にやさしい地域づくり

令和元年　No.1292

山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

10

明日を拓く ―成果を検証する―

平成30年度　第71回山口県学校美術展　推奨作品
「創作意欲」
光市立島田中学校　2年生（受賞時）　平田　梨華

■特別号
（一財）山口県教育会の事業

■第71回日本連合教育会研究大会滋賀大会
滋賀大会に参加して
柳井市立平郡東小学校　教諭　藤田　走
柳井市立柳井南中学校　校長　秋田　和美

■第10回青年教師の集い
参加者の思い　研修教員11名
下関市立向井小学校　教諭　萱野　誠
岩国市立東中学校　教諭　金田　隆史

■支部の事業
柳井支部　支部長　吉浦　正明
阿東支部　支部長　吉岡　圭税

■現職研修助成事業
―学校研修―
周防大島町立三蒲小学校　教頭　藤村　純子
周南市立今宿小学校　教諭　西川　尚代
周南市立秋月中学校　教諭　角田ゆかり
（英語教育推進教員）
山口市立生雲小学校　教頭　内山　雅司
長門市立深川小学校　教諭　髙橋　博子
―サークル研修―
山口県特別支援教育研究連盟
難聴・言語障害教育部　岡　直美
（下関市立名池小学校　教諭）

■地域活性化活動助成事業
山口市立徳佐小学校　校長　松坂　等
下関市立角倉小学校　校長　田中　康夫
萩市立川上小学校　校長　俣賀　信裕
萩光塩学院高等学校　校長　中村　柔道

あなたのアクションは…

山口県教育会がすすめる
「元気やまぐち」三つのアクション

◎あいさつ 返事で 明るいやまぐち
◎笑顔でつなぐ 安心やまぐち
◎ゴミ 落書きのない 美しいやまぐち

一般財団法人　山口県教育会

〒753-0072　山口市大手町２－18　TEL 083-922-0383　FAX 083-922-5768
URL http://www.ykyoikuk.or.jp　E-mail ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp
明治36年4月第１号　毎月１日発行　発行人　会長：倉増誠彦／編集長：山本晃久

第71回日本連合教育会研究大会滋賀大会

第71回日本連合教育会研究大会滋賀大会

期日　7月25日（木）・26日（金）
会場　びわ湖大津プリンスホテル

全国各地の教育会から千名余りの教育関係者が滋賀県大津市に集いました。山口県からは、教育会関係者をはじめ小中学校の現職教員、総勢40名が参加し、日本連合教育会の取組や学習指導、道徳教育、特別支援教育、などについて研修しました。学校・家庭・地域の連携分科会では、萩市立大島小中学校　横沼潤一校長先生が研究実践を発表しました。

開会行事

来賓祝辞
滋賀県知事
三日月　大造　様

来賓祝辞および行政説明
文部科事務次官
藤原　誠　様

大会会長挨拶
日本連合教育会会長
後藤　正幸

来賓祝辞
滋賀県教育委員会教育長
福永　忠克　様

大会実行委員長挨拶
滋賀県教育会会長
川越　達也

記念講演

「一人一人のライフ（生命、生活、人生、活力）に寄り添う学校を創る」
～「特別の教科　道徳」を要として～
武庫川大学大学院　教授　押谷　由夫　氏

限りなき愛情を注ぐことが道徳教育の原点
押谷由夫

愛情を注ぐとはどういうことでしょう
愛はぬくもりです
ぬくもりを感じるのは
肌と心です

肌のぬくもりは肌と触れ合うことで感じます
握手をする
ハイタッチをする
それだけでぬくもりが伝わってきます
肌のぬくもりは心のぬくもりへとつながります

心のぬくもりは心を包み込んでもらったときに感じます
私の側に立って話してもらえるとき
私を丸ごと認めてもらえるとき
自分以上に私のことを思ってもらえるとき
心が自然にあたたまります

どうしてこのような対応ができるのでしょう
相手を信頼しているからです
だれもがよりよく生きようとする心をもっています
そのことを信じるからこそ
心のぬくもりを伝えることができるのです

このことを一番でいえばリスペクト（敬意）です。
一人一人をかけがえのない存在として敬うことです
愛情を注ぐとは
よりよく生きようとする心を信じ
一人一人へのリスペクト（敬意）を深めていくことと言えるのです
それは道徳教育の原点にほかなりません

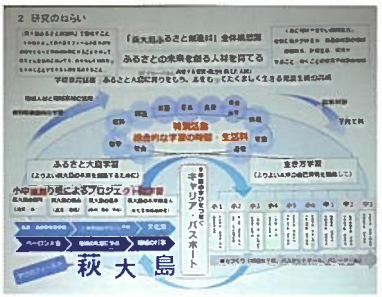
道徳教育を充実させるとは
一人一人への愛情を深め
一人一人のよりよく生きようとする心への信頼を強め
一人一人へのリスペクト（敬意）を高めていく
そしてよりよい自分と社会を創っていくことなのです

（押谷先生の講演資料より抜粋）

分科会発表（第10分科会）

「学校、家庭、地域の連携」

「ふるさとに誇りをもち、志をもってたくましく生きる児童生徒の育成」
～児童生徒や地域とともに行うカリキュラム・マネジメントを通して～
萩市立大島小中学校　校長　横沼　潤一



映写

昼食後、滋賀県が所有する学習船「うみのこ」で県内の小学五年生全員を対象に一泊二日の宿泊体験学習を行う「びわ湖フローティングスクール」の取組が映像で紹介されました。

（大会要項から抜粋）

（放映画像より）

滋賀大会に参加して

井の中の蛙、大海を知る

柳井市立平郡東小学校
教諭　藤田　走

「井の中の蛙大海を知らず」ということわざは、中国の思想家である荘子の「秋水篇」に拠るそうです。滋賀大会に参加した私は、まさしく「井の中の蛙」で、大海の広さや大きさを知ることとなりました。

本大会では、「ふるさとを愛し、心豊かで主体的に生き抜く子供の育成」を大会主題として研究協議が行われました。私が参加した学習指導の分科会では、全国から集まった多くの先生方による実践をもとに、「確かな学力を育む学習指導」について協議が行われました。私は、全国の先生方の強い志と熱い想いに圧倒されました。周りの先生方の凄さや他県の学校の進んだ校内研修を知り、私は自分が「井の中の蛙」であることをさらに痛感しました。

茨城県の先生は、「切実性」に焦点を当て、授業の実践をされていました。子どもが地元の水産業に対して、ひとごとのように考えている実態があったそうです。「子どもにとって身近なことであるから、子どもはそのことに関心をもっているとは限らない」ということは私も感じたことがあります。そこで、子どもが切実に考える学習課題を設定しました。そうすると、子どもは自分の問題として捉えることができます。その結果、社会的事象の意味を考えることにつながったということでした。

滋賀県の学校では、「複合的な問題を解く力」や「見通しをもち未来を考える力」を育てるために、子ども一人に一つのタブレットを用いた話し合い活動を行ったり、企業と提携してロボットを用いたプログラミング学習を行ったりしていました。また、校内研修にもタブレットを取り入れて、研究の情報を蓄積していました。

井の中の蛙である私は、大海を知り、自分の小ささを感じました。圧倒されはしましたが、共に協議をした先生方に、我が柳井市や平郡東小学校の美しさや素晴らしさ、そこから見える空の青さを伝えることができました。大海を知る前より自分が住んでいる井戸のことがもっと好きになりました。

次期開催教育会挨拶
香川県教育会副会長
前田　寛文

分科会
グループ協議のようす

コンベンションホール
（分科会場）

開会式来賓席

全体会場

開会式主催者席

未来への発信

柳井市立柳井南中学校
校長　秋田　和美

連日の猛暑を忘れさせてくれるような清々しい琵琶湖を臨む会場で、第七十一回大会が千人を超える参加者のもと開催されました。

午前中は、武庫川女子大学大学院の押谷由夫教授による「一人一人のライフ（生命、生活、人生、活力）に寄り添う学校を創る～「特別の教科　道徳」を要として～」を演題とした記念講演が行われました。道徳の教科化という大きな変革の中、道徳教育がこれからの教育改革の先導役を果たせるようにというお話は、人間教育の場としての学校の役割について改めて考えさせるものでした。

午後からは、第十分科会「学校・家庭・地域の連携」に参加しました。研究協議題「地域の資源と人材を活かし、共に育ち学び合う教育活動」について、山口県から萩市立大島小中学校の横沼潤一校長先生が実践提案をされました。小中一貫教育校として、「学校・地域連携カリキュラム」の作成に、保護者や地域の方々だけでなく、学習主体者である児童生徒も関わった取組の過程について具体的な説明がありました。「ふるさと大島学習」で身に付けたい力は何か、ということを明確にした連携への強い意欲がうかがえ、多くの示唆に富んだ内容となっていました。グループ協議の中でも、地域の特徴と学校規模を強みとして活かす視点は、「地域とともにある学校づくり」を推進する際に重要な要素であるとの意見が出され、連携のあり方についての協議がさらに白熱する有意義な時間となりました。

現在山口県が進めているコミュニティ・スクールの取組は全国でも先進的なものとなっています。「連携」の形や方法は一律に決まったものがあるのではなく、どのような児童生徒を育てようとしているのか、について常に問い続けながら「連携」していくことが未来へ継続する教育をつくります。

この度、全国大会の参加への機会を得たことは、現在の学校の取組について、成果の検証と分析への深まりが期待できる実り多い大会となりました。

第十回青年教師の集い

八月八日（木）・九日（金）の二日間、小学校教員六名、中学校教員五名の参加を得て理科指導について研修を行いました。新学習指導要領を踏まえ、新たな指導のあり方を追究しようとする先生方の熱意と、萱野誠先生（下関市立向井小学校教諭）と金田隆史先生（岩国市立東中学校教諭）の熱心な指導により、充実した宿泊研修になりました。研修を終了した参加者の思いを紹介します。

岩国市立麻里布小学校
教諭　珠山　信昭

青年教師の集いに参加させていただいた二日間で、次の「出会い」の大切さを改めて実感しました。

まず、「理科の面白さとの出会い」です。理科について協議し、模擬授業を作り上げる中で、理科の授業をする意義や面白さを感じることができました。また、理科における見方・考え方を意識した授業づくりを心掛けていかなければならないことを改めて深く考えることができました。

次に、「同じ志をもつ仲間との出会い」です。指導助言の先生方や教育会、中学校の先生方、そして知恵を出し合い、悩みながら共に学んだ小学校の五名の先生方、理科に限らず先生方と様々なお話ができたことが私にとって大きな財産であり、今後の糧になると思います。

経験し学ばせていただいたことを、これから先に出会う子どもたちに還元し、科学することが好きな子どもを育てていきたいと思います。この研修に携わられた全ての皆様方に心より感謝申し上げます。

下松市立花岡小学校
教諭　中村　唯

理科の授業作りに一生懸命取り組んでいる仲間と出会うことができて、充実した二日間となりました。

実践発表では、子どもたちが「この問題を解決していきたい」と思えるように工夫が凝らされた実践をたくさん聴くことができました。仲間たちの理科の授業作りに対する熱意を感じることができ、自分ももっと子どもたちが主体的で楽しいと思えるような授業作りをしていきたいと意識を高めることができました。

模擬授業では、指導者の先生に親身になって相談に乗っていただいたり、的確なアドバイスをいただいたりしました。大変勉強になりました。授業後は、和やかな雰囲気の中で仲間たちと互いの授業の良さを褒め合ったり、課題を伝え合ったりし、視野を広げることができました。

今回の研修で学んだことを二学期からの日々の授業作りに取り入れ、子どもたちに還元していきます。この研修に携わられた全ての先生方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

美祢市立大嶺小学校
教諭　菅　昭子

この度参加された先生方とともに、理科学習の面白さや奥深さについて語り合い、学び合ったこの二日間は、とても有意義な時間となりました。

「理科という授業を通して、どのような子どもを育てたいか」、『『なぜ？』『どうして？』という問いを生み出すための発問は？」「単元全体で学びをつなげるためにはどうすればよいか」など、様々な視点から協議することを通して、子どもたちの具体的な姿をイメージしながら、よりよい授業づくりについて考えることができました。

この二日間の研修で学んだことを生かし、子どもたちの「なぜ？」という問いをもとに、友達との関わりを通して「なるほど！」をたくさん生み出せる授業ができるよう、日々励んでいきたいと思います。

また、今回の研修で関わった先生方とのつながりを、これからも大切にしていきたいと思います。

この度は貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

下関市立向井小学校
教諭　津守　成思

実践発表や指導案作成、模擬授業を通じ、多くの先生方と語り、学び合い、高め合うことができ、これからの実践で大切にしたい二つのことに出会うことができました。

一つ目は「ねらいをはっきりさせること」です。終末の子どもたちの姿をイメージして授業を行うことは、より必然性のある発問や問い返しにつながることを学びました。子どもたち一人ひとりの言葉を深く理解しながら授業を進めていくうえでも見通しをもった学習展開を大切にしていきたいです。

二つ目は「深い教材解釈」です。理科は特に子どもたちの曖昧な言葉や解釈が飛び交うことが多い教科です。それらを丁寧にくみ取り、結び付けたり、適切な解釈に誘ったりするために事前の教材研究を大切にしていきたいです。

子どもたちに「理科の面白さや奥深さ」「学ぶことの楽しさや喜び」を届けられるように、本研修で得たことを糧に実践を続けていきます。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

萩市立明倫小学校
教諭　梶山　裕貴

二日間の研修を通して、理科の面白さや奥深さを改めて感じることができました。

実践発表では、先生方の具体的な実践を聞くことができ、とても勉強になりました。また、中学校の先生方とも協議をすることで、小学校で基礎的な知識を身に付けさせておくことの大切さを実感しました。

模擬授業では、先生方の子どもの好奇心を引き出す課題の提示や、考えがより深まる教材の工夫などから、理科の面白さ・有

用性を意識した授業づくりについて研修することができました。また、子どもたちにどこでゆさぶりをかけるかということも、授業づくりのポイントであると学びました。

この二日間、研修を進めていく中で、たくさん学ぶことができ、大変刺激を受けました。今回学んだことを今後の実践に生かしていきたいと思います。

萩市立多磨小学校
教諭　縄田　翔

今回の研修で、理科の楽しさを改めて理解できただけでなく、学習意欲や有用性をもたせて授業することの大切さについても考えることができました。

実践発表や模擬授業では、ＩＣＴ機器を活用した実験や教室全体を使ったダイナミックな実験など、学習意欲を高める実践がたくさんありました。

これらを参考に、実験に対して課題意識が低い子どもたちが、興味深く考え、取り組むことができる実験の工夫や、「やってみたい」と思えるような課題提示をしていきたいと思います。

研修を通して、先生方の理科の授業に向き合う熱心な姿勢にとても感銘を受けました。私も、一層情熱を向けていきたいと思います。研修の機会を与えてくださった教育会の皆様、ご指導いただいた先生方に心から感謝いたします。

岩国市立岩国中学校
教諭　藤村　泰平

この度、「第十回青年教師の集い」に参加させていただき、理科教育の楽しさを再認識できた二日間となりました。

一日目の実践発表では、植物の水の吸い上げについて、小学校の先生の授業の工夫を知ることができました。本校でも、小中一貫教育を進めていますが、小学校の学びを踏まえて、中学校でどのように発展させるべきか考えるよい機会となりました。

二日目の模擬授業では、生徒に何を身につけさせたいのか、そのためにどのような課題を生徒にもたせるべきなのかということに留意して授業を行いました。他の先生方の模擬授業においても、生徒の興味・関心を高めながら、生徒が課題意識をもてるような演示実験等の工夫がなされていました。また、身近なものを題材として用いることで、生徒が具体的なイメージをもって思考できるように配慮されており、私の授業にも活かしたいと思いました。

防府市立国府中学校
教諭　坂本　智穂実

理科教員として採用されて三年余り、日々の授業の中で、生徒の「考える力」の育成について課題を感じ、今回の研修会に参加しました。

初日の小学校の事例発表では、授業を進めていく中で課題意識をどのようにもたせるのか、そして、いかに主体的な考察をさせるかについて、多くの工夫が紹介され、とても刺激を受けました。

二日目の模擬授業では、様々な授業が展開されました。その中に、自分がもち合わせていない視点からの発問や興味をそそられる教材があり、理科学習の楽しさや奥深さを一層感じることができました。

今回の二日間の研修を経て、理科特有の実験や観察を通して、今後自分が授業の中で生徒にどんな力を身に付けさせるべきなのか、また、学習した内容を生徒がどんなところで生かしていけるのかについて、より深く考えることができました。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

防府市立華西中学校
教諭　石津　智久

二日間の研修を通して、理科の楽しさ、奥深さを再確認することができました。

一日目の実践発表では、中学校だけでなく、小学校での実践発表も聞くことができました。自分自身も受けてみたいと思うような授業の話をたくさん聞くことができました。私も生徒にこのわくわく感を感じさせられるような授業をしていきたいと改めて思いました。

二日目は、模擬授業を行い、授業についての協議を行うことで、自分の普段の授業を振り返ることができました。また、他の先生方の授業に生徒役として参加することで、生徒がどんなことを考えて授業をうけているのかを体験することができました。

生徒に授業を受けて良かった、楽しかったと思ってもらえるように、今回の研修での経験をこれからの授業づくりに生かしていきたいです。

山口市立阿東中学校
教諭　田中　孟

改めて理科の授業のおもしろさや奥深さ、難しさに触れることのできた二日間でした。

実践事例発表では、小中学校の発表を聴き、学習内容のつながりを感じることができました。また、このような実践があるのかと非常に感心させられると同時に、小中連携の大切さを実感しました。

模擬授業では、授業の様子を多くの先生に見ていただき、温かいご指導・ご助言をいただいたことはこれからの励みになりました。また、他の先生方の授業や指導案から、様々な工夫を凝らして授業に臨んでいることや情熱をもって教科指導にあたっていることを強く感じ、良い刺激を受けるこ

とができました。

この度学んだことを今後の授業実践に取り入れ、少しでも教育活動や生徒に還元していきたいと考えています。このような貴重な機会を与えてくださりありがとうございました。

萩市立萩東中学校
教諭　**秋山　広之**

「科学的に考える楽しさを伝えることができる教師になりたい」。これは教員採用試験のときに私が掲げた理想とする教師像です。今の自分はこの理想に近づけているのか。その確認と再認識の場として、今回の研修は非常に貴重な経験になりました。

小学校の先生方との事例発表では、素朴な疑問や誤概念から学習意欲を喚起する「児童の目線に立った授業づくり」の大切さを学びました。また、指導案づくりでは学習の系統性を理解し、スパイラルな学習の中にある「小中の学習の違い」を、ポイントを押さえて教えていくことの難しさを実感しました。

学びの多かった研修を終えた今、私は次の言葉を特に印象深く覚えています。それは「学習することの必然性が必要。そこが楽しさや有用性の実感につながる」という言葉です。簡単そうで実は難しい課題です。研修で受けた刺激を活力に、この課題と向き合い、これからも楽しい授業と理想の実現をめざしたいと思います。

指導案作成風景

模擬授業の実験風景

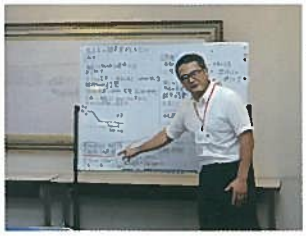
指導助言者

下関市立向井小学校
教諭　**萱野　誠**

「語らうことは心が通い合うことなのだ。心にあるバリアを取り除いていくことなのだ。そして、この出会いを大切にしたいと思う」。この言葉は、全国規模の研修会に参加した際、早稲田大学教授の露木和男先生からいただいた言葉です。指導助言の立場として参加した本研修会は、私にとって、小・中学校だけでなく、山口県教育会の先生方とも多く考えを語らい合う中で、自分自身の内容知や方法知の更新が促される、大きな学びの場となりました。

理科といえば「問題解決」です。しかし、本当に「理科」だけの学びなのでしょうか。変化著しい昨今、向こう十年二十年その先と、はっきり見えない世の中を生きていく子どもたちにとって、もはや「汎用的な学び」ではないかと私は思います。学級担任が理科を持つ機会が少ない本県の中で「問題解決」「理科の面白さ」「理科の有用性」についての考えを練り上げた私たちは、風媒花のごとく各地で科学の種子となり、芽吹き、花開き、さらにはまた種子をまいていくことでしょう。

「テーマがあるから語らうことができる」。テーマや語らいの場をご提供いただいた山口県教育会の先生方、共に語らった研修教員、指導助言の金田先生に感謝いたします。



岩国市立東中学校
教諭　**金田　隆史**

校種や担当学年の壁を越えて、たくさんの先生方が集まり、お互いに意見を交わしながら理科の授業について考える、とても素敵な二日間でした。

授業づくりでは、予備実験等もしながら、理科ならではの事象の面白さを味わいました。理科のさらなる面白さは、その仕組を解き明かしたり、そこに潜む規則性を見出したりして、事象を理解していくことにあります。参加された先生方は、調査や実験・観察を行い、議論を交わしながら、その面白さも実感されていました。まさに、理科の授業の中で子どもたちに求める探究活動の姿が、先生方の姿の中にありました。このように、まずは教材研究を通して、理科を学ぶことの面白さを教師自身が実感することが大切ではないかと思っています。そしてそれを踏まえたうえで、その面白さを子どもたちが味わえるような授業をつくっていくことになります。どのような活動を仕組めばよいのか、子どもたちはどう考え、どのような所でつまずくのか、それに対してどのような手立てを講じればよいのか、子どもの反応を思い描きながら考えていきます。まさに教師としての本領を発揮する場面です。

これからも先生方には、教材研究を、そしてそれを生かした授業づくりを、しっかりと楽しんでもらいたいと思っています。

支部の事業

元気やまぐち・やないから ～伝えたいふるさと・つなげる絆～

柳井支部
支部長　吉浦　正明

私たちは、会員一人ひとりのつながりを大事にすることが楽しい活動の基だと考える。そこで、地域をぶらり歩くことによって、「ふるさと再発見」の喜びを試みることにした。

毎年、小学校区を中心に、児童・教職員・保護者・地域の人たちといっしょに、講師の解説のもと、校区内を散策している。講師は、文化財に造詣の深い会員や地域の方にお願いした。

その地域散策の中で、名所旧跡に触れ、一人ひとりの思いや感動が共有された時こそ、「再発見」の喜びが感じられる。それが、一人ひとりの心に宿り、「ふるさと」が映像として刻まれることで、互いの絆を強めていくことができるのだと思う。

こうした時、やまぐち教育の日・教育県民大会柳井大会を引き受けることになり、早速に準備委員会・企画委員会を立ち上げ議論を積み重ねていった。議論の中では、複雑には考えず、今、本支部が活動していることを生涯学習の一環として捉え、その一端を紹介することで単純化していく方向で一致し「伝えたいふるさと・つなげる絆」を副主題として取り組んでいる。

本大会の中で、副主題のテーマに沿った討論会を通して、山口県民に対して「地域の教育力向上」につながる提起ができるならばという方向へ歩を定めた。

今盛んに「地方が元気に」と言われている。こうした中、本支部の取組発表が、本大会のあり方に一石を投じることができるならば幸いである。また、本大会を通じ、「あれくらいのことなら、うちでもできるよ」という声が聞けるなら嬉しい思いである。ご参加いただきご意見賜りたいと思う。

商都柳井の面影残す
金魚ちょうちんゆらぐ白壁の町へ
「来んさい　見んさい　寄りんさい」

「ふるさと再発見」の学習

地域の特性を生かした支部活動の推進

阿東支部
支部長　吉岡　主税

阿東支部では、事務局の仕事を学校の教頭先生に担っていただいています。支部独自の事業は事務局の学校で開く総会を兼ねた役員会だけですが、実行委員会方式で青少年の健全育成をめざし、「地域の子どもは地域で育てる」を目標としていくつかの事業を実施しています。

阿東地区内の小学四～六年児童を対象として、異年齢の子どもたちが協力して自然体験や生活体験を行う「阿東アドベンチャースクール」は、今年で十七回を迎えます。

また、毎年十種ケ峰青少年自然の家を活用して、日中は学校で学習し夜は合宿を行う通学合宿を実施しています。昨年は、十一月に、四泊五日で実施しました。参加児童数十五人に対して地域の指導者（委員、地域の方，大学生等）三十一名という熱の入れようです。主な活動は、自分のことは自分でするという生活体験学習（掃除、洗濯、等）や協力して活動する自然体験学習（フィールドアスレチック）、その他の活動として（協調性を育む和太鼓の演奏）などでした。

八月末の日曜日に実施される十種ケ峰登山マラソンは、小学生の部（二・五km）、中学生の部（五・四五km）、一般の部（五・四五km）、一般の部（十km）の種目があり、今年で二十九回を迎えました。今年も四百人近い選手のエントリーが地区内外からありました。

会員の減少は、山口市との合併後きびしい限りでありますが、阿東支部では地区委員に、地区の婦人会の会長さん方に入っていただいており、退職校長会の地区委員とも情報を共有して会員の募集や広報紙等の配布を行っているという状況の中、現職会員と一般会員の人数がほぼ同数で推移しています。会員の高齢化や行政の広域化等今後、いろいろなことが課題として出てくることと思いますが、会員の皆さん方と一緒に、生涯現役の気持ちで活動していきたいと思っています。

目標達成をみんなで応援します
（阿東アゾベンチャースクール）

学校研修

子どもたちが学び合う授業のために

周防大島町立三蒲小学校
教諭　藤村　純子

本校は、全校児童28名の完全複式学級の小規模校です。豊かな自然に恵まれ、子どもたちは明るく素直で、家庭や地域は学校教育に対する関心が高く協力的です。

本年度、「山口県へき地・複式教育研究大会」を開催すべく、「複式学級だからできる」、「少人数だからこそできる」を合言葉に、研究主題を「自ら学び、考え、表現する力の育成」と掲げ、副主題を「自分の考えを伝え、学び合う授業づくりを通して」として、その究明にあたっています。

研究を進めるにあたって、全教職員が心掛けていることは、まず、日々の授業を大切にすることです。次に、授業の中で、子どもたち一人一人が自分の考えをもち、互いの考えを伝えながら学び合える場の設定や時間の保障を重ねていくこと、そして、地域と連携しながら教材を開発していくことです。

こうした取組により、子ども同士の対話が広がり、主体的に関わりながら学ぶ姿が多く見られるようになりました。さらに、自分や友達のよさに気づき、協働してやり遂げることの楽しさや分かったときの喜び・感動が実感できるようになってきました。

研究を深めるために、外部から講師を招聘したり、授業研究は、保護者や地域の方々、町内の小中学校の教職員にご参加いただき研修会を行ったりしています。また、研究の拡充を図るために積極的に各種研修会にも参加するようにしています。講師招聘や研修会参加、そして学習環境を整備するにあたって、山口県教育会の現職研修助成事業～学校研修～を活用させていただけたことをとてもありがたく思っています。

今後も全教職員が目標を共有し一丸となって研究を推進し、さらに、家庭や地域等と連携・協働して様々な教育的試みを行い、「チーム三蒲」としてさらなる実践を深めていきたいと考えます。

ボードに自分の考え書いて伝え合う

学校研修

「かかわり合い、伝え合う子ども」の育成を目指して

周南市立今宿小学校
教諭　西川　尚代

本校では、５年前から「心を耕す道徳教育」を研究主題として研修を進めている。昨年度より「特別の教科　道徳」となり、指導と評価の一体化を図りながら児童の発言や記述を見取ることに重点を置いている。また、多様な意見を出し合い、その中でよりよい価値を求めて話し合い、深めていくという学び方について研究を深めてきた。５年次にあたる今年度は、副主題である「かかわり合い、伝え合う子ども」の育成を意識し、課題に対し児童がそれぞれの感じ方や考え方を伝え合い、吟味し、自分や集団の考えを深めていく「議論する」授業を目指している。更に、本時のねらいについて考えを深めるため、主発問をどのような内容にし、授業を組み立てるのか、子どもの変容をどう見取ってどのような評価をするのかについて研修を深めていきたいと考えている。

研究授業では、年に３回講師をお招きし、指導助言をいただく予定である。光市立浅江小学校教頭、八木伸江先生にご来校いただく際に、山口県教育会の現職研修助成事業による助成を有効に活用させていただいている。

７月３日の５年生の研究授業では、八木教頭先生を講師にお招きし、授業参観、研究協議を行った。研究協議では、グループに分かれて、授業での気づきや改善案を出し合い、明日から取り組んでいくことを話し合った。めあての書き方や、児童の発表のさせ方、主発問の設定の仕方とその後の問い返しについてなど、「考え議論する授業」を行うために大切なことについて、とても細やかに、そして具体的にお話いただいた。さらに、道徳科では「納得解」を目指し、児童一人ひとりが、今日の学習で納得できたという実感がもてるような授業を行っていくことが必要だということも、ご指導いただいた。

残り２回の校内研修も、八木教頭先生にご指導いただきながら研修を進め、かかわり合い、伝え合う子どもの育成を目指していきたい。

授業研究後のグループ協議

学校研修

周南市小中連携英語科授業力向上研究

周南市立秋月中学校
教諭　角田　ゆかり
（英語教育推進教員）

本校と秋月小学校は、昨年度「小中連携授業力向上研究」に取り組み、連携を進めてきた。今年度はさらに、小中連携英語科授業力向上を目指して次のような取組を実施している。

○　中学校教員が小学校の学びを知ることで、小中の英語科授業のスムーズな接続につながると考え、研修会への相互参加を行っている。７月２日に実施した小学４年生外国語活動の研究授業に中学校英語科教員が参加し、実際に小学校で行われている授業を肌で感じ、授業後の研究協議で意見交換をした。夏季休業中には「小学校外国語活動研修会」にも参加し、小学校の授業について理解を深め、２学期からの各学年の授業作りを協働して進めた。２学期に実施する中学校英語科の研究授業には小学校教員の参加も予定している。また、小学校では、外国語科の授業で２時間に１回行う活動「Small Talk」を研修職員会の前に教員同士が演習することで教員の英語力向上を図っているが、その際使用する表現については、中学校教員のアドバイスを参考にしている。

○　英語教育推進教員が毎週２日、小学校を訪問し、T２（ALTがいるときにはT３）として外国語活動の授業に参加している。放課後には授業の振り返りや次の授業の検討会を行い、バックワードデザイン（逆向き設計）での単元計画と授業作りが定着してきている。

○　小学校の学習指導要領完全実施後も、数年間、異なる内容や時間数で外国語活動・外国語科の授業を経験してくる中学１年生を迎えるに当たって、小中連携は必至である。そのため、たより「えんじょいEnglish」を発行し、授業の実際を互いの校種の教員に伝えている。

児童・生徒が楽しくコミュニケーションを図り、「英語を使って○○することができた！」という実感をもてる授業を創出していくために、山口県教育会からの助成を、研修会講師の招聘や研修会の参加等に役立てさせていただき、今後も小中連携をさらに深めていきたいと考えている。

小学校での授業風景

学校研修

地域との連携を核にしたキャリア教育の推進

山口市立生雲小学校
教諭　内山　雅司

本校の学校教育目標は「夢や目標に向かって努力し、人との関わりを大切にしながら、ふるさとに貢献する生雲っ子の育成」である。生雲地区は、学校行事や地域行事を、学校と地域が連携することで互いに貢献し盛り上げている。また、阿東中学校区での地域教育ネットの充実にも力を入れ様々な活動に取り組んでいる。本年度山口県教育会の現職研修助成事業の助成金を活用させていただき、より充実した取組になるようにしていきたい。

本年度の取組

○中学校区内の学校間連携

小中で連携して、自己成長を促し、自己肯定感・自尊感情を高めるキャリア・アルバム（キャリアパスポート）の作成に取り組んでいる。小中９年間継続して取り組むため、夏季休業中に小中合同研修会を行い、各校の進捗状況等情報交換を行った。また、昨年度作成した「小中連携カリキュラム」で、目指す児童・生徒像を定め、重点項目を系統的に指導している。年度末には３校の全教職員で見直しを行う予定である。

○地域との連携

６月に地域の老人ホーム、保育園、自治会、消防団と合同避難訓練を実施した。本年度で３回目だが、災害内容や避難場所等変更したり、方法を改善したり、回数を重ねるたびに充実し、新たな課題が見えてきた。来年度の予定も立っている。

また、老人ホームとは福祉体験学習でもつながりを持っている。合同避難訓練に備えて車椅子体験やお年寄りとの接し方等を学び、実践している。保育園とは、１・２年生が学習内容の発表を行ったり、招待したりしている。また、保育園と老人ホームと合同で芋の苗植えや収穫、季節ごとの行事でも交流している。

その他にも書き初めや生け花、将棋、昔の遊び等、地域のゲストティーチャーを招いて交流を深めている。

今後も、学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育て、ふるさとに貢献する子どもの育成に邁進していきたい。

お年寄りとの接し方を学ぶ

学校研修

一人ひとりの学びの深化をめざして

長門市立深川小学校
教諭　**髙橋　博子**

本校では、昨年度までの研究主題「だれもが『わかる・できる』授業の創造」のもと、特別支援教育の知見を生かした温かな学習仲間づくりに力を注いできた。今年度からは昨年度の取組を基盤に、研究主題を「対話的な学びを通して、自らの学びを自覚し、表現できる子どもの育成」とし、「ひと・もの・こと」と豊かに関わり合いながら、一人ひとりの深い学びにつなげていくことができることをねらいとした。具体的な視点として、

○　目的を明確にした「対話的な学び」
○　自己の学びを見つめ直す「振り返り」

の２点を掲げ、全教職員のチーム体制で校内研修に取り組んでいる。

また、新学習指導要領の全面実施を来年度に控え、外国語教育やプログラミング教育の研修も研究主題に沿って進めている。特に、プログラミング教育については、今年度、「プログラミング教育実践研究」研究協力校の指定を受け、プログラミングロボット（mbot）を用いた実践研修やプログラミング的思考を育むための授業実践についての研修を積んでいるところである。山口県教育会から現職研修助成事業により助成をいただくことにより、講師の招聘や校内研修会で必要な消耗品などの購入ができ、より充実した校内研修を進めていくことができている。

11月13日(水)には、県下７校のうちの一つとして、本校で「令和元年度『プログラミング教育推進事業』研究協力指定校授業公開」を実施する。来年度の全面実施に向けて、授業を提案していきますので、たくさんの方に御参加いただき、御意見をいただきたいと思っている。

今後は、私たちが研修において深めたことを授業でいかに子どもたちに還元していくかを考え、子どもたちがよりよく関わり合いながら、自らの学びを深めていくことができるように、校内研修をさらに充実させていきたいと考えている。

プログラミングロボット（mbot）の実践研修

サークル研修

共に学び、つながり、支援をつなぐ

山口県特別支援教育研究連盟
難聴・言語障害教育部　**岡　直美**
（下関市立名池小学校　教諭）

山口県特別支援教育研究連盟　難聴・言語障害教育部（県難言）は、難言教育の充実、子どもたちのよりよい支援をめざして、自主的に研修をしていこうという教職員の集まりです。会員一人一人が協力して会を運営しています。

今年度の県難言参加校（難言学級・通級指導教室設置校、総合支援学校等）は76校、会員数は188人で、共に研修をすすめています。年度末に作成している研究集録も、今年度で49号となりました。諸先輩方から脈々と引き継がれてきた、長い歴史のある研修母体です。

県難言では、充実と専門性の継承を大切に研修をすすめています。専門性の継承には、知識や指導技術だけではなく、子どもたちの心を育てる関わり手としての姿勢も大切にされています。専門性は一朝一夕には身につきません。そこで「知っている人を知っていることは、知っていることと同じ」を合い言葉に、県内の会員が一同に集まって研修する機会を年２回設定する等、会員同士がつながり、知っている人を知り、充実した子どもたちへの支援ができるように研修をすすめています。

今年度は山口県教育会から助成を受け、より充実した研修会を実施できました。全体研では、構音指導で著名な専門家を招いて、発音練習の方法を、参加者が自分で音を出して確認しながら具体的に学びました。他にも言語聴覚士や臨床心理士等、専門家の講話を聞いたり、経験の長い会員が指導者となって、会員同士で学んだりしています。保護者のお話を聞くこともあります。また、県難言ＯＢの先生方も指導者として協力してくださっています。みんなで学び、明日からがんばろう！と元気の出る研修になっています。

これからも、教室が子どもたちにとって心を育てる場所、自信を育てる場所であり、子どもたちや保護者にとって、安心できる場所となるように、先輩の諸先生方から受け継がれてきたものを大切につなげ、みんなで学び合い、つながり、一緒に歩んでいきたいと思います。

研修会のようす

地域活性化活動助成事業

子どもとふるさとをつなぐ「人」「もの」「こと」

山口市立徳佐小学校
校長　**松坂　等**

「スッサー、スッサー、スッサカサ…」このフレーズは、徳佐地域の伝統芸能「はやしだ」の合いの手のセリフです。はやしだとは、豊作祈願や田植えの仕事が楽しく進むよう、太鼓などを使い田んぼの周囲で歌い踊る芸能です。編み笠にかすりの着物を身に付けた子どもたちが歌い踊る姿を見ると、何かタイムスリップをしたようなノスタルジックな感じになります。

本校で取り組んでいるはやしだ継承活動も今年で27年目を迎えます。始まった当初の子どもたちは今では30代後半の年齢となり、親子ではやしだに関わったという家庭も少なくありません。現在、4・5・6年生の37名で継承活動をし、地域の行事やイベント等で披露しています。4月には徳佐八幡宮の「桜まつり」で披露をしました。5月には願成就温泉で開催される「お田植まつり」で早乙女役の子どもが田んぼに入り、苗を植えるなど、昔の風習そのままに、はやしだを披露しました。今後は運動会や地区民体育大会でも披露することとなります。また、トピック的にイベントに参加することもあり、昨年開催された「山口ゆめ花博」にて、はやしだを全国に披露することができました。

子どもたちは、伝統芸能（もの）に携わることで多くの支援者（ひと）と関わり、発表の場（こと）を得ることで更にふるさとのよさを知り、ふるさとに誇りと愛着を感じています。その誇りや郷土愛がこれからの人生の自信やチャレンジ精神につながればと思います。

最後に、本活動に助成いただいた山口県教育会に心より感謝申し上げます。おかげさまで必要な物品を修繕・新調することができました。今後も10年、20年とはやしだが続くように学校・家庭・地域が連携しながら子どもたちと取組を進めるとともに、はやしだを徳佐地域及び徳佐小の特色ある取組として、様々な機会に活動を発信・披露していきたいと思います。

「はやしだ」を披露する子どもたち

和太鼓に親しむ ～平家太鼓クラブの創設～

下関市立角倉小学校
校長　**田中　康夫**

下関市彦島地区は、地域の祭りや小中学校の運動会でも平家踊りが必ず行われるほど、平家踊りや平家太鼓が伝統文化として大切にされている地域です。角倉地区（彦島第四自治連合会）には、弟子待町と山中町に平家踊り保存会が２つあり、本校児童も保存会に所属し、練習をして様々な機会で太鼓を叩いています。しかしながら、近年、少子化の影響もあり、保存会に入って活動する児童数は減少傾向にあります。実際には、和太鼓に触れたこともない児童の方がはるかに数が多い状況です。

そこで、角倉小学校のクラブ活動の一つとして、平家太鼓クラブを新設し、和太鼓に親しむ機会を設けたいと考えました。運営にあたっては、学校の教員だけでの指導は難しいので、自治連合会長でもある学校運営協議会長に相談し、保存会または地域の方を講師として、活動を支えていただくことになりました。クラブの立ち上げにあたっての最大の問題点は、肝心な太鼓の調達でした。これも、彦島第四自治連合会や角倉小学校運営協議会の全面協力のもとで探していただき、町民館に眠っていた太鼓を小学校専用に借り入れることができました。さらに、一つの太鼓だけでは十分な練習ができないだろうと、コミュニティ・スクールの活動で、地域の方に竹の練習台（写真）を作っていただきました。クラブに入った10人の児童は、そのほとんどが初心者ですが、練習する姿は真剣で、とても楽しそうです。

最終的には、地域のふれあい祭りや運動会等で、練習の成果を披露するところまでをめざしたいところですが、まずは、和太鼓に親しみ、地域の伝統行事について知り、身近に感じることに軸足を置いてじっくりと活動していきます。

今年度、山口県教育会から地域活性化活動助成事業の支援をいただいたおかげで、地域とつながりのある活動をより効率的に展開することができます。文字通り、地域活性化につながる取組を、学校と地域が共に進めていきたいと考えています。

日々「平家太鼓」の練習に励む

地域とともにある学校を目指して

萩市立川上小学校
校長　**俣賀　信裕**

本校は萩市の南東に位置する山間部の学校である。地域の過疎化とともに学校も小規模化が進み、現在は完全複式学級となり、全校児童22名、家庭数18である。そのような環境から小中連携は進んでおり、学校運営協議会も一体化している。地域も学校教育に大変理解があり、いろいろな面で支援をいただきながら特色ある教育を進めたり、学校行事と地域行事を一体化したりして、地域と学校の活性化を図っている。

このような中で、山口県教育会の地域活性化活動助成事業による助成が大きな助けになっており、大変感謝しているところである。

以下、昨年度及び今年度（予定も含む）の助成金を使った活動や取組を紹介させていただく。

《カヌー》
今年度県内初の体育科授業として取組を開始。
来年度は中学校も体育科として実施予定。
また、一昨年度から学校運営協議会主催で小中学生を対象に阿武川下りを実施。
熱中症対策に経口補水薬を購入。

《長門峡清掃》
小中合同で40年以上続くボランティア活動。
清掃用具等を購入。

《運動公園清掃》
小中ＰＴＡで行うボランティア活動。
混合油等を購入。

《花壇づくり》
昨年度、地域に潤いをと川上体育館前に新設。
花の苗を購入。

《鼓笛隊》
小学校が約50年続けている活動。保小中地域合同運動会や川上ふるさと祭りで演奏を披露。
昨年度、衣装１着購入。

《走ろう大会》
今年度から地域行事と学校行事を一体化。
安全確保のためのコーンやバーを購入予定。

今後も子どもたちのよりよい成長を支えていくために、「地域づくり＝学校づくり」の視点で連携・協働していきたい。

体育科として「カヌー」に取り組む

書道パフォーマンスで地域に元気を!!

萩光塩学院高等学校
校長　**中村　柔道**

本校は「地の塩・世の光」を建学の精神とし、「自分の周りに喜びと光をまく人になる」ことをめざした教育活動を行っている。そのため、日頃からボランティア活動や地域貢献活動には特に力を入れて取り組んでいる。

このような環境の中、書道部は９年前から部活動の一環として書道パフォーマンスに取り組み始めた。おそらく山口県内では最初に始めた学校だろう。初めは文化祭などの学校行事の中で、次に地域のイベントに、そして書道パフォーマンス甲子園やイオンモールカップ高等学校書道パフォーマンスグランプリ大会への出場を目指して活動の幅を広げてきた。

書道パフォーマンスは、日本の伝統的な「書」の文化に、ダンスパフォーマンスなどの要素を取り入れ、書道の新たな魅力を発信していることで、近年人気が高まっている。

本校書道部にも「イベントなどで地域の活性化に協力して欲しい」「子どもたちに書の魅力を伝えて欲しい」という依頼が県内外から多くある。また「お年寄りや体の不自由な方にも書道パフォーマンスの迫力を生で感じてもらいたい」という依頼もあり、ボランティア活動として社会福祉施設などで書道パフォーマンスを行っている。昨年、そのような実績が認められ萩市教育文化奨励賞を受賞した。

実は書道パフォーマンスを行うにはかなりの費用がかかる。特にボランティアとして社会福祉施設などを訪問する場合は、紙代・墨代・道具代など全てを学校が負担するため、経済的負担も大きい。

しかしこの度、山口県教育会の地域活性化活動助成事業より支援をいただいたことで活動の幅が大きく広がった。書道部の生徒たちは支援をいただいたことに感謝しながら「書をとおして、これからも日本の伝統文化の発展と地域活性化に貢献していきたい」と強く願い活動している。

作品と部員たち